

## 親愛なる田代の青年の

《瀬川一行二間、島田産ダ、視察勉強、良くな部隊、うな同感、長の要るルート》の猪頭み氣生

田代の社会教育を診断する



發行所 田代村公民館  
電話 19番  
發行責任者 湯ノ谷米吉  
編集責任者 小川一  
鹿児島市易居町2  
南日本新聞社印刷局

社会教育主事 小川兵一

昭和 32 年 10 月 1 日 (毎月 1 日発行)

団長始め役員幹部の皆さんお元気で御効きのことと存じます。深まり行く秋と共に稲穂もつしりと垂れて来ることでしよう。

今年は大豊作を期待される作柄だつたのですが台風の来襲で相当の被害があつた由、残念に思つて居り、ここにお見舞申し上げます。毎年の台風の来襲南九州の宿命でしょうか。早期栽培等、日々の成果の中、将来的農業を安定づける為のため今まで皆さんの研究個人の問題家の仕事で忙しさに感じて、山も二、三合まで牧場ですが、雨のない為（八カ月）冬枯野同然、乳牛、肉牛が三々伍

皆さんお元氣ですか

派遣される中でそれ／＼のグルーブ活動、青年団活動にと精進さる役員皆さんの御苦労察し申しげます。

小生の居るサリナス市は気候佳の処で九月に入り田代と同じで、七、八月よりやゝ暖いです、二、三週間続くそうでインテニアサンマーと呼ばれて居ます。

先づ第一日目の二十日は、農協のトラックにお願いして、一行は猪鹿倉部落に足をのばし、あのよみがえるようなすがくしい霧朝氣の公民館で、小組合長辰彦公民館長の川路美義氏から部落運営の概要を聴き、更に猪鹿倉島通鑑並ループアの立派な活動状況を聴取しつつ、しばらく實踐營養があつて後部落内にはりり、整理整頓の実に良くなぎ回いたあの目的の覚めるような台所改善の状況を観察して、一同感たんじ、更に足をのばして島淵の白桃義雄氏等数名の樹苗生産グループでやつて居られる美に管理の行き届いた立派な樹苗園を観察して、此處でもほんとに良い勉強をさせてもらつたと、一同に二度感たんの声をもらさせ、更に一行は島淵の高台から眺める花瀬川の天下の絶景に後髪を引かれ、思ひを残してトラック上の人のとなり一路雄川ダムに向いましたが、雄川ダムでは特に一行の為に宜な曲つて下さつて、あの雄大な水門を示すターン一つで自由自在に閉して、大洪水の時のように水に落ちて見せて下さつた為に雄川ダムはしばらくではありませんが、ながら大瀑布の觀を呈し同生にて初めて見る雄川瀑布の壯觀にせられたかうこうでした。一同はくら大度感たんの声がもれたが、は言ふ迄もありません。かくして雄川ダムを最後に現觀察を終えて再び村の公民館にて上田村長の村政概況について、湯谷教育長の社会教育概況の掲げ早速会議に移り、郡社会教諭連絡協議会長の挨拶に引續振興連絡協議会長の挨拶について、早速グループ運営の表にうつり、

と  
東大原茶栽培グループの運営について  
鶴田野営農改修グループの運営について  
樹苗牛糞振興会の運営について  
猪鹿辰良説民  
田代中野林クラブの運営について  
川原 健志君  
からそれくら立派な発表があり、  
一同に深い感銘をえたえ、統じて  
質疑応答、全体討議にはいり各  
町村の社会教育主事さん方が、  
田代の社会教育について、色々な  
角度から見た質問があり、私共が  
とりましては非常に貴重な勉論の  
ひと時でありました。

色々出た質問の中で特に私の耳  
と  
き  
地  
事  
開  
便  
發  
説  
る  
のは  
「猪鹿辰良は実にすばらしい  
部落であり、生活改善も台所の  
社会教育に深い理解を持たれ、社

考えて貰く機会をつくりたいと思  
います。  
最後に、指導主事、峯先生の指  
導講話がありましたが、講話の内  
容を要約すれば、  
「田代と言う所は非常に何もか  
もうまく行つて居ると言ふ事はか  
ねがね聴いて居たが、役場を中心  
にして、農協、公民館、学校、森林  
林組合と言つたような、村内のあ  
らゆる機關が、他町村で見て見ら  
れるような組織的なものをつくる  
上、お互いに良く協力し合つて村  
の發展に一生懸命して居られる  
姿は、寒々しい姿であり目分離の  
大いに学ぶべき点である。  
田代の社会教育に対して、県が  
目をつける位、此のように立派に  
行つて居るのは、役場、農協、学  
校、その他あらゆる機関団体が、  
社会教育に深い理解を持たれ、社

会教育を真に公民館のものでなく、村のもの村人のものとして心から協力して居られるからである。この事はほんとに他の範とすべきだと思う。此のような郷親りをしない、功名争いをしていない、村的な協力体制の中からこそ、会教育が栄え、村の生々發展する動力が生れて来るのである。今更に田代が立派な村になるに頑張つてもらいたい」と言ふ事ありました。

以上で会を終つて、後は各町とも田代に一泊してもらいまして、夜は村長始め田代の指導団と深く交えて懇談してもらひました。

そこで、翌三十一日に各町村共  
だいたい意見をまとめてもらいま  
したが其の意見を要約すると、や  
はり田代の良さはなんと言つても  
「社会教育に対する全村的な協  
力体制が出来て居ること、田代  
には繩張り争いや功名争いの影  
が全く見受けられない事、誰が  
やつても良い、とにかく村が榮  
えて行けば良いのだ、と音う氣  
持で、あらゆる機関団体が社会  
教育に心から協力して居られる  
事」  
之が田代の最大の長所であり、  
社会教育が進んだ原動力であると  
おもふ事であります。

最早効力がなくなつたのか?  
一) 貯金  
貯金三、八一五万円に対し実績  
「六三三万円で達成率は九五  
セントである。昨年同期三、  
七万円に対し四三五万円の増  
七月末に比較し」三五万円減  
る。  
二) 借入金  
借入金一、二九八万円に対し実績  
「一、一四万円で八一六万円増  
した。昨年同期一、四八〇万円  
し六三万円やはり増加して  
。これは諸種(対連合会の  
により整備定期預金、〇〇  
円を担保借入したことが最大  
因である。

私鉄約一〇〇万円肥料の予約分による返済と三〇〇万円も未払として上った。又本年度上半期までの支拂二六五千円をも計算してい  
以下部門別にみると

(1) 借用事業

計画七八万一千円の利益に対  
実績は五七万八千円の損失で一  
五万円の差異が生じたがこれは預  
利息、貸付金利息の減少と借入  
利息の増加によるものである。  
の原因については

(2) 預金利息

計画七七七二〇〇〇円実績一  
六、〇〇円差引不足額六三五  
九〇円。

昭和三十一年八月三十一日付

計 償 金 三 三 そ し よ る。  
（3）販売事業  
計画利益六六二千円に対し実績  
七五九千円で九七千円の増加で  
ある。  
**（4）加工事業**  
計画利益七四千円に対し実績  
一、〇六五千円と約一〇〇万円に  
増加である。これは九月に計画で  
ていた三十一年産穀粉の精算が  
月に終つた関係である。

たたかく、その他の青年の運動は、たゞ制約がありますが、多い時は十ヶ国位の国の青年と交る機会あります。国际的な雰囲気に浸ることも無意味ではないと思ひます。

新農村建設運動、青年団活動強化と、皆さんの存在もいよいよ、重視され、その中堅としてリーダーとして、郷土の發展の裏付けとなるべく御健斗お願い致します。団員の皆さんによろしく、最後に御一回の御健康をお祈り致しまして失礼致します。

九月十九日

瀬ノ口 四郎

居られた事であり、私共田代の社  
此の事は一同口を揃えて言つて  
**経営は**  
**体順調に延び**  
**大績検討の結果につい**  
て指  
的の利用と協力により計画に對  
する実績は概ね順調に延びてゐる  
と思われます。今後この実績に現  
われた欠かん是正の為、尚一段の  
努力をかたむけるべきである。  
以下主な検討の結果について記  
した。

る。これは當農賃金員付賃度の増四%（八%）である。この引上と林野整備取扱によるもので、原木払下の等によるものである。去る六月行つた中央会議による経営分析の調書にも指摘せられており、又財務基準会から見ても、今後貸付が長期化されつつあることを直視し延滞貸付の回収と並んで、安全化、健全化することが必要であるために、一応延滞貸付して行くこと、延滞は七月末に比し七五万円減じていているが未だ二六四件で、三万円残っている。七八月に貸付したのであるが、以上の情況であるので、ここに到れば法的手道をとらざるを得なくなつた。総会にて約束したお互の信義による解決

協力体制と言ひ大きなかつたが、後押をしたからだ確信致します。

加となつてゐる(達成率一一・二)  
C) 表類  
画三二一餞に対し二四餞で一  
餌の減である(達成率一二・%  
D) 茶  
画一、〇〇〇貫に対し実績一  
四貫で三四四貫増加してゐる  
成率一二三・%  
一、収益状況  
に上半期に於て收支トントン  
の盈餘が設立以来一〇年にし  
なえられた。即ち計画一七万  
円の損失が実積一二千円の  
となつた。しかも経理規程に  
は計上せず、逆に木炭の追

事業関係(取扱状況)  
肥料取扱  
一、五七五円に対し実績は  
一〇六万円で四九万円の増加  
する(達成率一〇四%)。昨年  
一二、〇四五万円と比較すると  
一円増加している。  
一般資材  
画は五〇五万円に対し、実績は  
五万円で一〇万円減じてある  
成率九八%。昨年の三六六万  
比較すると一二九万円増加し  
る。  
食糧  
画は三〇三万円に対し実績は  
一二万円で殆んど計画通りであ  
る(達成率九九%)。昨年の四四  
円に対しても一四万円の減  
なつていてる。  
販売費  
A) なたね  
画二、二六二俵に対し実績は  
五三五俵で七三七俵の減とな  
る(達成率六七%)。これ  
書による減収によるもので止

(2) 購買事業  
計画一、四・六千円に対し実績  
は一・八千円で二・八〇円増加した。これは前述した通り春肥の貯蓄を担保として資金を借りなければならぬので此の特別定期を組むこととした。此の借入金を計算以上に多くした。又貸付金が計画以上に多くなつた。此れの支払利息が三三四円内で、結局此れが差引超過となつた。又貸付金が計画以上に多くなつた。此れの支払利息が三三四円内で、結局此れが差引超過となつた。此れは前述した通り春肥の貯蓄を担保として資金を借りなければならぬので此の特別定期を組むこととした。此の借入金を余額なくされたことに一因である。(事業計画樹立並當時は此の資金の借入は考えていかなかつた。

○三七千円を特別定期に預け入れられることになつてゐたが県信連に運営により昭和三十二年一月一日付で特別定期に預け入れられ、急に三十二年八月三十日に此利息六七八、四〇〇円が收入とする予定のものが下学期(三十三年一月一八日)に変更された。

(口) 貸付金利息

計画一二〇、四〇〇円差  
八九〇、八五円、差引不足三  
八九、一四八円。

本年度の貸付金回収計画は延滞の皆無を目指して樹立してあるが、八月三十日現在の延滞額は二六四件、三三五、四五円あり、此の利息二三三、八三円が未収入となつてゐることと経過利息一、〇一五、九五三円内一部が未収入であることが計画に遡しなかつた原因である。

(口) 借入金利息

計画四九二、三〇〇円実績八  
二、六四〇円、差引超過三八一  
四〇〇円。

金保はもれつ十行便  
な三日も続いた庚辰の初  
されど世界の急に抱き明  
日への希望抱き明  
我等進まん

であるが計画より増加したのは、(ア)事務費。  
計画一七六千円に対し実績二四千円で、これは消耗品費の増加によるもので、価格の関係で一年分を前に印刷した關係である。年間計画を増加しないと思われる。

(イ)施設費  
計画三四二千円に対し実績は五四五千円で二三千円増加したが、事場の改修によるものである。  
以上、上半年期の実績の検討をして、計画に対する実績は相調和は謂え、本年度の計画達成は今年の下半期にかかるといふことである。(文責 中原)

三  
狀  
況

に對し三四倍で一  
る達成率二  
〇%實に対し実績一  
四實増加している  
て借入金を余儀なくされたことも  
いる(達成率二  
〇%)の指掌に反するので此の定期預金  
の担保として資金を借りなければ  
ならぬ)。此の特別定期預金を担保  
して一、〇〇〇万円の借入金を行  
つた。此れの支払利息が三三四千  
円で、結局此れが差引超過となつ  
た。又貸付金が計画以上によくくれ  
亡き父と歩きし夜の  
俳句 我等進まん  
されど全世界の為に  
明日への希望抱きて





